



大分合同新聞 2023年12月16日 (土) 朝刊 11面

“生き物博士” 小1保木井君

由布市

【由布】由布市湯布院町の川西小1年、保木井晃之君(7)が「生物分類技能検定」の4級に合格した。受験時は6歳で、公表されている昨年度までの最年少記録に並ぶ。生き物が好きで「将来は冒険家になりたい」と笑顔を見せる。

試験は一般財団法人「自然環境研究センター」(東京都)が実施。野生生物の正しい分類知識を持つことや、調査・保全を担う人材育成などを目的に1999年から始まった。1〜4級があり、1級は環境コンサ

ルタントなどプロレベル。初心者向けの4級は学生や動植物に興味がある人が受験。身近な生物の区別や形に関する基礎的問題などが出題される。4歳ごろからカブトムシやクワガタに興味があった

生物分類技能検定

最年少タイ4級合格



生物分類技能検定の4級に合格した保木井晃之君＝由布市湯布院町

保木井君。自宅近くなどで生き物を観察しては、図鑑で調べ知識を増やす。絵を描くことが得意で、母親の福美さんは「昆虫の脚の細かいところまで描く。観察力がすごい」と話す。読書量も多く、ジャンルを問わず週に70冊ほど読むという。

検定を受けるのは初めて。兄の景之君(9)と川西小3年が昨年度の「天文宇宙検定」に合格したことに触発され、自らも生物関連の検定に挑戦したくなったという。8月中旬に大分市内のテストセンターで受験。パソコンで選択問題に解答した。120分の制限時間よりも早く解き終え、「自信はあった」と振り返る。

11月に合格が判明。「うれしかったし、もっと生き物が好きになった」と顔をほころばせる。昆虫の繁殖もしてみたいし、日本に生息していない昆虫も見てみたい。やりたいことがいっぱい」と、さらに興味を膨らませている。(池田美香)

4級は2000年度に新設され、22年度までに延べ1万5890人が受験。合格者は9573人で合格率は60.2%。



問①～④について、記事の中から探して書き出しましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕「生物分類技能検定（せいぶつぶんるいぎのうけんてい）」はどういうことを目的に
始めましたか。記事の中から、あてはまる箇所を全部書き抜きましょう。

答え 【 野生生物の正しい分類知識を持つことや、調査・保全を担う人材育成
など（を目的に） 】

〔問②〕保木井くんが合格した4級はどんな問題が出題されますか。
記事の中から、あてはまる箇所を全部書き抜きましょう。

答え 【 身近な生物の区別や形に関する基礎的問題 】

〔問③〕保木井くんのお母さんは、保木井くんのどんなところがすごいと言っていますか。

答え 【 （昆虫の脚の細かいところまで描く） 観察力 】

〔問④〕保木井くんは「やりたいことがいっぱい」と言っています。
やりたいことの例としてあげている2つのことは何ですか。

答え 【 昆虫の繁殖 】 と 【 日本に生息していない昆虫を見る 】 こと

〔問⑤〕保木井くんは「将来は冒険家になりたい」と言っています。
あなたは将来どんなことがしたいですか。その理由も一緒に書いてみましょう。

※自由記述